

地図を活用しての地域探検

～体験を重ねて身に付く力～

小出特別支援学校川西分校(高等部) 村山 恵美子

単元のねらい・目標

地図を活用して移動できる



自分たちで移動できると楽しい。



単元・指導の工夫①

▪身近な場所から広げる体験活動

①校内を巡る

校舎案内図を見て、9の教室を巡り「宝ハチョウリンツダ」の9文字を見つける。

②学校の周辺を巡る

地図を見て目印を撮影し確認しながら目的地まで往復する。道の分岐路等では「今どこ?」「目印は?」「進行方向に地図を回す」を職員がチェックする

③市内の施設を巡る

目的別に選んだ施設(3カ所4グループ)を見学する際、地図を活用して巡る。



単元・指導の工夫②

白地図の活用



方角や位置をしらせる情報。

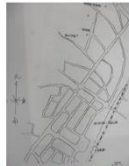
教師は「今どこにいるか?」、「目印は何か?」、「地図を進行方向に回しているか?」を確認。



①校内を巡る



②学校の周辺を巡る



③市内の施設を巡る

授業の様子

①校内を巡る

仲間を頼らずに地図を回したり(70%)、方向を確認したり(55%)する姿が見られた。

②学校の周辺を巡る

移動の最中に自分のいる場所を地図上で確認できる生徒はおよそ5割

③市内の施設を巡る

地図を見ながら生徒たちだけで8割が目的地に到着できた。

まとめ発表では



今までの原稿を見ながら発表パターンから

↓
出店型の発表にすると

原稿がなくても発表

質問にも答えられた



聴衆を呼び込む姿も!

生徒の変容

- ・教師が先頭を歩かなくても、目的地に向かうグループが8割
- ・地図や、目印を意識して市内を歩いていた生徒が約7割
- ・発表を繰り返すうちに原稿無しで発表できた。

成果と課題



- ・計算ができる生徒は距離や時間も考慮して地図を活用できるようになるとよい。
- ・地図を見る力がついて、休日余暇の活動の範囲が広がって、仲間と出かけることができるようになるよい。

